

**第33回 花の国づくり共励会**

**花き技術・経営コンクール**

**受賞者の業績概要**

令和6年2月

一般財団法人日本花普及センター

## 第33回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール 受賞者一覧表

### 【農林水産大臣賞】

窪田 敬一（くぼた けいいち）

窪田 鈴江（くぼた すずえ）

鉢物（ガーデンシクラメン、自根夏野菜苗、野菜接木苗、マリーゴールド、パンジー・ビオラ、ナスタチューム、プリムラ類、ニューギニアインパチェンス、グリーンネックレス、オステオスペルマムなど）

神奈川県平塚市

山田 裕也（やまだ ゆうや）

切花（スプレーギク）

愛知県豊川市

### 【農林水産省農産局長賞】

山口 豊喜（やまぐち とよき）

切花（カーネーション）

佐賀県佐賀市

吉村 晴喜（よしむら はるき）

吉村 節子（よしむら せつこ）

切花（アスチルベ、センニチコウ）

長崎県佐世保市

### 第33回花の国づくり共励会（令和5年度）花き技術・経営コンクール

#### 審 査 講 評

第33回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール受賞者の皆様方には心からお祝いを申し上げます。花き技術・経営コンクールは、花の国づくり都道府県協議会などより推薦がありました経営体について、6名の審査委員により、提出された書類ならびに県などへの聞き取りおよび現地調査に基づき厳正に行われました。その結果、本共励会の最高賞である農林水産大臣賞には、次の2経営体が選ばれました。

神奈川県平塚市の窪田敬一・鈴江ご夫妻は、鉢物・苗物生産経営を営んでいます。窪田氏は高校を卒業後、神奈川県園芸試験場で1年間の鉢物研修を受けた後、昭和44年に親元でもあるカーネーション農家の一角でシクラメン栽培を始めました。さらに、昭和49年よりオランダのMan社で2年間の花き生産研修を受け、栽培・繁殖技術を習得しました。一方、鈴江氏は結婚を機に昭和55年に就農しました。平成2年に有限会社五領ヶ台ガーデンを設立し、約20,000㎡の施設を基に、持続的な経営の安定と環境、雇用の改善に努めています。

栽培面では、ロータリーベンチ、底面給水ベンチ、液肥混入システム、環境制御システムなどの導入で大幅な省力化を実現するとともに、オリジナル商品や新品種の作出、絶滅危惧種の育成にも積極的に取り組んでいます。また、夏期での栽培に適応できる高冷地施設を設置し、良品生産や早期開花を目的に暖地との間でリレー栽培を実施しています。出荷・販売面では、9割以上が受注生産であるため、出荷計画に基づいた栽培管理が出来るように、栽培記録に基づく栽培可能数の数値化を実施しています。雇用管理面では、上記数値化から労働力計画が可能となり、同時に、栽培工程管理、物品の発注、在庫管理などに関わる労働の軽減が可能になりました。パートタイマーの労働時間は、週毎に希望の労働日に合わせて働けるように配慮し、育児休暇の取得も可能にしています。環境保全面では、防虫用ネットの利用、水のリサイクル、肥料の有効活用、保温カーテンの活用、ヒートポンプの設置などで、省エネ対策の実践と重油消費量の削減に取り組んでいます。さらに、神奈川県農業教育振興会幹事、JA湘南金目地区生産組合長連合会長などとして地域社会活動にも貢献しています。

このように、鉢物・苗物生産において、創意工夫により安定した生産経営を維持していること、雇用や環境に配慮した生産を実施していること、過去3年間において出荷数量、経営収支とも安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞に相応しい花き生産の模範となる経営体であると判断されました。

愛知県豊川市の山田裕也氏は、スプレーギク生産経営を営んでいます。大学卒業後、JA営農指導員として勤務の傍ら大学院で修士号を取得し、平成23年に親元のスプレーギク生産農家に就農しました。農林水産省のスマート農業技術実証プロジェクトに参画して作業の機械化や効率化による労働力の削減を実践し、栽培技術の改良と大学院で学んだ経済学を経営改善に生かして経営の安定化に努め、就農当初5,000㎡であった施設面積を、約10

年間でほぼ倍の面積となるまでに事業の拡大を図ってきました。

栽培面では、統合環境制御装置や微粒ミスト装置に加え、開花までの栽培期間が短い品種への転換、ソイルブロック苗や無摘心栽培の導入などで、1作当たりの栽培期間が約80日と短くなることで、大規模面積にもかかわらず年4.5作を実現し、全国でも類を見ない先進的な挑戦を実現しています。出荷・販売面ではD2出荷（JA集荷センターで冷蔵保管し、翌々日配送）の実施により、セリ前注文販売チャンスの拡大で、市場単価の安定化に繋がっています。また、買い手向けに主要品種の写真と特徴などを記載した品種カタログを作成し、部会の販売促進に取り組んでいます。雇用管理面では、被雇用者が自主的かつ効率的に仕事に従事できる環境を構築するとともに、作業量や作業能力に応じた賃金体系を取り入れています。さらに、作業手順や作業技術を動画としてQRコードから読み取れるようにし、作業イメージを理解しやすいようにすることで、労働生産性を向上しています。地域活動においては、農福連携事業の継続的な実施、豊川市農業委員として地域計画策定への取組、高校生を対象とした花育授業の実施など、地域活動への積極的な取り組みを行っています。

このように、スプレーギク生産経営においてスマート農業の実践により安定した生産・販売を維持していること、雇用や環境に配慮した生産を実施していること、過去3年間において出荷数量、経営収支がとも安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞に相応しい花き生産の模範となる経営体であると判断されました。

農林水産省農産局長賞に選ばれました次の2経営体は、農林水産大臣賞に選ばれました経営体に収益性、あるいは、経営の安定性の上で僅かに及ばないものの、以下に述べる点で高く評価されました。

佐賀県佐賀市の山口豊喜氏は、カーネーション切り花生産を営んでいます。県立農業大学校を卒業後、アメリカのカーネーション農家で2年間、さらに国内のカーネーション農家で1年間の研修を受けた後、昭和58年に就農し、両親が営んでいた米麦大豆作に加えて、新たな品目としてカーネーション栽培を開始しました。開始当時に建てた300坪のハウスは、その後の30年間に1,500坪にまで拡大しました。この間、持続的な経営を目標に、雇用、環境の改善に取り組み、経営の安定に努めています。

栽培面では、土づくりにこだわり、毎作付け終了時の土壌分析に基づいた施肥設計を実施しています。また、植栽本数を検討することにより、通気性や採光性を高め、よりボリュームのある切り花を生産しています。出荷・販売は市場と直売を手掛けていますが、品種の選定は市場担当者から得た市場動向や他産地情報から行い、販売では特に日持ち性を重視した調整を行っています。雇用管理面では、雰囲気の良い明るい環境の整備に努め、勤務時間は従業員の都合に合わせて臨機応変に対応できるようにしています。また、地域では生産組合長、機械利用組合長、集落営農組合長などとして地域営農へ貢献してきました。

このように、カーネーション切り花生産に安定した経営を実現し、地域の花き生産振興に寄与していることが評価されました。

長崎県佐世保市の吉村晴喜・節子夫妻は、アスチルベを主品目とした切り花生産経営を営んでいます。晴喜氏は昭和47年に親元でもある輪ギク生産農家に就農しました。一方、節子氏は昭和50年の結婚を機に就農しました。昭和53年に経営を継承しましたが、その後、

バラに作目転換しました。しかし、阪神淡路大震災を機に宿根草であるアスチルベ切り花生産を開始しました。現在では、千日紅も加え、周年出荷を目指しています。

栽培面では、アスチルベの品種選抜とともに、1季咲きのアスチルベ作型を、春化处理やハウス下温対策を検討することで、2季咲きの作型を確立し、安定した生産を実現しています。出荷・販売面では、アスチルベやセンニチコウの鮮度保持技術を確立するとともに、染色技術を活用し、市場から新色も要望されるまでに至っています。また、市場を通してアメリカや韓国への輸出も対応しています。雇用管理面では、常時雇用を収穫作業に、家族労働を出荷調整作業に分担することで、各自のスキルを向上させ、作業時間の軽減に努めています。また、地域の花き産業担い手育成のため、新規就農候補者を研修生として積極的に受け入れています。

このように、アスチルベ等切り花生産に安定した経営を実現し、次代の農業の担い手育成にも積極的に取り組んでいることが評価されました。

令和5年は、この数年間続いた新型コロナウイルス感染症による制限規制が解除され、ようやく普段の生活が戻ってきたように感じられましたが、その一方で、温暖化現象の進行により、花きに限らず多くの作物で生育不良や出荷への影響が懸念されました。そのような中で、今年度の審査会において推薦のあった多くの経営体が、栽培技術の高度化により生産効率を高めると共に、労働力の削減、生産コストや環境負荷の低減に努める一方、消費者ニーズに合う品目・品種の選択、オリジナル品種の育成、輸出も見据えた新しい需要の開拓に力を注ぎ、着実な経営に腐心されていることに心強く感じました。今後とも、花き産業の健全な発展と心豊かな国民生活の実現に向けて、なお一層のご尽力を賜りますようお願いし、審査講評といたします。

令和6年2月2日  
審査委員長  
腰岡政二

## 【農林水産大臣賞】

窪田 敬一（くぼた けいいち）窪田 鈴江（くぼた すずえ） 神奈川県平塚市  
（鉢物 ガーデンシクラメン、自根夏野菜苗、野菜接木苗、マリーゴールド、パンジー・ピ  
オラ、ナスタチューム、プリムラ類、ニューギニアインパチェンス、グリーンネックレス、  
オステオスペルマムなど）

窪田敬一氏は、父親がカーネーションの切り花栽培を行っていたことを受け、長男である自分が農家を継ぐことを決意し、農業高校に進学、卒業後は神奈川県園芸試験場で1年間の研修を受け、44年に就農し父の施設の一角を借りてシクラメン栽培を始め、昭和46年には150坪のガラス室を建設した。昭和49年からは、オランダの経営や栽培に興味を持ち、2年間オランダの種苗会社で花きの生産研修を受け、栽培・繁殖技術を取得した。そこでエラチオールベゴニアと出会い栽培方法や繁殖技術を習得した。帰国後は、日本ではあまり栽培されていなかったエラチオールベゴニア生産を本格的に取り組み、昭和57年から苗の需要が高いことに気づき苗生産に栽培を切り替えた。その後、この技術を活かして昭和63年からニューギニアインパチェンスの苗生産を行なった。

平成2年に法人化して有限会社を設立、敬一氏が代表取締役、妻鈴江氏が専務取締役に就任した。平成5年には、それまでのハウスでは、栽培環境が適さなくなり、現在の場所に大規模温室を新築し、生産拠点を移した。建設の際には、幅の広い通路、底面給水ベンチ、レインシャワー、防除など環境制御等で徹底して労力節減を目的とした構造と設備内容にした。ニューギニアインパチェンスの苗生産は、販売単価が下降線になり国内生産によるプラグ苗の需要に陰りが出てきたため生産を終了し、平成7年からペチュニア、カリブラコアの栄養繁殖とポット苗生産を受注した。平成9年には、ガーデンシクラメンの栽培を始めた。平成13年には、山梨県忍野村に農場を作り夏場の生産を始め、高冷地と暖地の2か所での栽培が始まった。さらに、独自品種を持つことに力を入れ、ミニシクラメンを中心に育種を行っており、高配を初めて10年になる。平成15年からは、プリムラジュリアンの育種をはじめ、出来上がった品種は海外からの評価も高く、令和6年度より海外への種の輸出も決まっている。平成17年、18年に取引先の撤退等により打撃を受けたが、オリジナル商品の開発と販売の選択肢を多く持つことなどが重要との結論を導き引き出した。取引先が撤退したのち、長年の努力を認めて取引を開始する会社が現われ、栽培技術、事務処理、配送手配、育種技術が評価され取引は年々増加している。

労働力軽減や労務管理についても積極的に行っており、平成30年には、2人目が生まれる社員が、育休取得など休みやすい環境づくりにも努めている。地域での信望も厚く、県花き連の鉢物専門委員長を務めたこともあり、また、平成7年からは、平塚市の認定農業者として地域農業の振興に寄与している。平成17年には、全国園芸鉢物研究大会において功労者表彰を受けている。

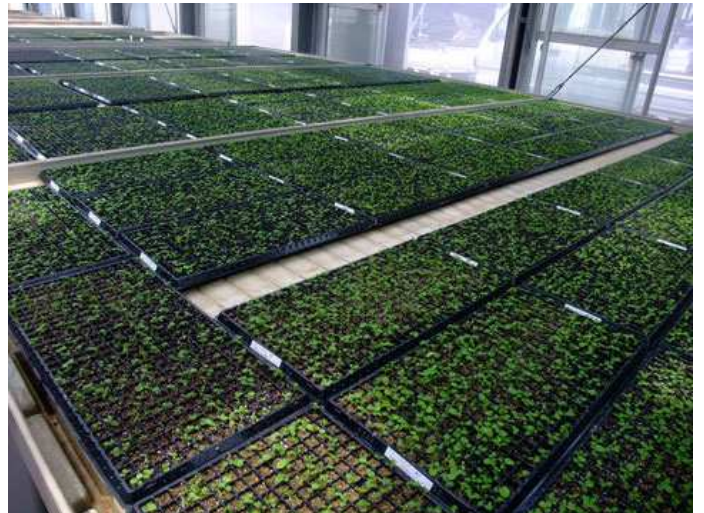
妻 鈴江氏は、昭和55年に敬一氏との結婚を機に就農した。当初は主に経理を担当していたが、子育て等が落ち着いてからは本格的に農業に従事し、会社設立後には専務取締役として資材調達から播種・定植・栽培管理、出荷準備と出荷までの人員配置などにも携わっている。生産面では、スカシユリや県の花に指定されているヤマユリなどの絶滅防止や園芸的利用の拡大を図る為に培養・増殖・販売の中心的な役割も担っている。



左から 妻 窪田 鈴江氏 右 窪田 敬一氏



ハウス外観



最新の苗生産システムを使った苗の管理



春：ニューギニアインパチェンス栽培の様子



ホソバササユリ



ヤマユリベニスジ

日本固有のユリの培養・増殖・保存を手掛けている

## 【農林水産大臣賞】

山田 裕也（やまだ ゆうや） 愛知県豊川市  
切花（スプレーギク）

山田裕也氏は、JA ひまわりで営農指導員として勤務する傍ら、名古屋大学へ通い経済学を学び修士号を取得した。実家はスプレーギクの生産農家であり、母親の体調不良をきっかけに、就農を考え始めた。経済学の知識を生かし、実家のスプレーギク経営を分析した結果、単収増加と機械化等による労働時間削減により、平均的な労働時間で十分な所得が得られるという結論に達し、平成23年4月に就農を決意した。

山田氏は、スプレーギク生産の先進国であるオランダの生産方式や国内先進農家の技術などの情報を積極的に収集し、高い行動力で自己の経営に取り入れていった。

経営改善に向けた取組として、花ロボなどの機械導入による労働時間削減について、トヨタの改善方式を手本に一つ一つの作業工程を見直している。まず、収穫本数に比例して労働時間が増加する出荷調整作業の労働時間削減のため、作業を半自動化できる「花ロボ」の導入を行っている。さらに、各作業工程の労働時間削減のため、自走式防除機、頭上灌水装置、歩行型肥料散布機などを精力的に導入し、労働生産性の向上に取り組んでいる。また、栽培改善やスマート農業技術の導入や、専門書等から栽培技術について研究を重ね、就農10年後の令和2年には、現在の作付回転数4.5作体系を実現し、全国でも類を見ない単収と作付回転数を実現している。具体的には、オランダの生産技術を参考に、ソイルブロック苗と無摘心栽培などを導入し、1作あたりの栽培期間の短縮を図っている。

また、令和2年には「スマート農業技術実証プロジェクト」で、行政、地元の企業及び大学と連携し、スプレーギク栽培における環境制御モデルを策定した。さらに、そのモデルを所属部会に還元することで地域全体の生産性向上に寄与している。また、中心となって組織した販売促進グループでは、スプレーギクを集出荷施設で冷蔵保管し、2日後に出荷する形態（D2出荷）を提案し、部会における販売チャンスの拡大に寄与した。さらに、労務管理では、山田氏が考案した独自の評価シートやアプリの活用により、労働者の意欲向上と自発性を引き出し、やりがいのある職場環境を作っている。

地域貢献では、農福連携で障害者雇用に取り組んでおり、令和5年は1～9月の9か月間で延べ約250名を雇用し挿し芽作業を任せ、障害者の雇用創出に大きく貢献している。また作業の細分化、単純化、マニュアル化により、障害者が安心して仕事に取り組める仕組みづくりをしている。さらに、農福連携に関する勉強会を開催することで、他の生産者にその取り組みが広がっており、農福連携を所属部会に波及させる役割を果たしている。また、高校生を対象とした花育授業により新たな農業者の育成に努めるなど、地域社会や本県の花き生産に広く貢献している。平成29年から現在まで、豊川市農業委員として活動を行い、令和5年度からは、40歳という若さで会長を務めており会長就任後は、「地域計画の策定」に尽力している。





左から 山田 裕也氏、娘 一嘉氏、妻 幸恵氏



令和4年に新設したハウス外観



従業員との集合写真



出荷前のスプレーギク



施設内スプレーギク栽培の様子

## 【農林水産省農産局長賞】

山口 豊喜（やまぐち とよき） 佐賀県佐賀市  
切花（カーネーション）

山口豊喜氏は、高校卒業後に県立農業大学校に進学。授業の一環でカーネーション栽培管理を行った際に、多様な品種や色があることに魅力を感じ、農業大学校卒業後に2年間アメリカで研修し、大規模カーネーション経営者の元で栽培技術を学んだ。帰国後には、国内の生産農家の元で1年間研修し、カーネーション栽培に必要な技術や品種選定などについて学んだ。研修先での「カーネーション農家になってよかったと思うときが来る」という言葉と、様々な用途がある汎用性の高い品目を見込んで、昭和58年に両親が経営していた米麦大豆に加えて、新たな品目としてカーネーションの栽培を開始した。就農時に300坪のハウスを建て、経営技術の安定化を図り、その後は徐々に増棟して、平成27年までに1500坪に拡大した。

花き栽培技術について特に工夫した点は、土壌消毒と圃場準備、土づくり、栽植本数である。約30年前に、土壌病害により半分以上のカーネーションを枯らしてしまう経験をし、品目変更を考えることもあったが、「カーネーションの栽培を極めたい」との思いから、土壌消毒方法の改善や消毒効果を上げるための圃場準備の工夫等を実践して、現在では、ほぼ枯れが無い状態での栽培を実現している。また、土づくりには、特に長年こだわりをもって取り組んでおり、栽培後の土壌分析を行い、数値データに基づいた施肥設計を行っている。さらに、1本あたりの単価を上げるために、一般的な栽植本数よりも少なく定植することで通気性や光の透過性を高め、ボリュームのあるカーネーションを生産している。また、菌資材の活用により、通常は、茎が柔らかくなる秋ごろでも茎が固い品質のものが出荷できるようになり、単価向上につながっている。

花きの出荷・販売について特に工夫した点は、出荷は、市場出荷と直販で、個人で出荷と販売を行っている。県内外の複数の市場との取引を行っており、地域によって求められる品種が異なることから、担当者から出荷動向や他産地の情報、今後ほしい品種などの情報を得て次回の出荷の参考としている。選花にはこだわりを持っており、一本一本丁寧に扱い、日持ちの良いカーネーションを出荷できるように心がけている。

地域社会活動の特色としては、地域の生産組合長や機械利用組合長、集落営農組合長などを務めて地域営農へ貢献してきた。地元の花市場のカーネーション部会では、これまで2回部会長を務めており、研修会や品種検討会を開催し、部会員の栽培技術向上や経営発展のために部会活動をけん引してきた。長男を含めた若手生産者など後継者育成にも尽力し、今は、部会活動を若手に引き継いでおり、活発な活動が継続されている。

今後の改善点は、近年、資材費等ハウスの建設費も高騰していることから、規模を拡大していく方向ではなく、現状の経営面積で販売額をあげていきたいと考えている。具体的には、収量と単価の向上を目指し、消費者が求めている品質のカーネーションが生産できるように努めていく。



左から三番目 妻山口 一代氏 四番目山口 豊喜氏



ハウス外観



ハウス内 カーネーション栽培の様子



佐賀県花き園芸共進会農林水産大臣賞受賞  
カーネーション「タイソン」



選花の様子

## 【農林水産省農産局長賞】

吉村 晴喜（よしむら はるき） 吉村 節子（よしむら せつこ） 長崎県佐世保市  
切花（アスチルベ、センニチコウ）

吉村 晴喜氏は、昭和47年に親元に就農した。妻節子氏は、昭和50年に晴喜氏との結婚を機に就農した。当時は、輪ギクを生産していたが、平成3年にバラの栽培に品目を転換し、バラの単価低迷や生産コスト増加、阪神淡路大震災による出荷停止などの状況を受け、所得向上のため、全国でも出荷量が少なく、宿根草で複数年栽培ができるアスチルベに着目した。アスチルベは日持ちが短く、切花としては不向きであったが、吉村氏が中心となって切花に向く品種の選抜や鮮度保持技術の開発等に取り組んだ。その結果、今まで栽培が続いている品種の選抜ができ、また独自の栽培技術及び鮮度保持技術により日持ちについても高い評価を得ている。アスチルベは、高規格ハウスを必要としない為、規模拡大の際には中古のハウスを利活用して経費の節約につなげている。

花き栽培技術について特に工夫した点は、アスチルベは日持ちがしない品種であるが、水揚げがよくなるように、草丈の伸長を抑えた栽培管理方法を検討し、その技術を確立した。自然条件において暖地では、夏期の7～8月は出荷することができないが、株の春化处理技術、ハウスの温度調整、土壌水分保持対策をすることにより7～8月の出荷を可能とした技術や、通常は、年末と春先の2度切りが主流であるが、12月から4月にも切れ目なく出荷できる栽培技術も確立した。7月下旬から10月にかけて、アスチルベの出荷が少ない時期には、センニチコウの収穫・出荷も行っている。

花きの出荷・販売について特に工夫したことは、アスチルベは、品種数が少なく、色合いも限られていたが、カスミソウの染色技術を応用し、多彩なカラーリングで販売、現在では、10種類を販売して、毎年新色の要望があるようになった。部会のアスチルベは、全国の取扱量の9割以上を占める日本一の産地となっており、優れた商品として認知されている。消費者ニーズの把握のため、定期的な販売促進活動を行っており、PR動画を作成し、取引市場に提供をしている。直売所でも、染色した切花を販売しており、消費者と直接話をする事で年齢層に応じた、染色切花の色の嗜好や関心についても参考にしている。

その他、病気や害虫に強いアスチルベに注目し、その結果、バラ栽培の時と比べて、大幅に減農薬、減化学肥料に繋がっている。

雇用管理面では、常時雇用を収穫作業に、家族労働を出荷調整作業に分担することで、各自のスキルを向上させ、作業時間の軽減に努めている。

晴喜氏は、所属するJAながさき西海アスチルベ部会長を通年4回、現在も就任しており、関係機関や市場、部会員からの信頼も厚く、部会の活動方針や市場との出荷調整などリーダーシップを発揮している。地域の花き産業の担い手育成のために、新規就農センター等の研修生を受け入れるなど地域農業の発展にも寄与している。

花きの輸出促進の取組については、平成元年からは、市場を通じてアメリカや韓国などへの輸出を開始しており、海外からの評価を受けている。今後も輸出の増加を目指し、更なるアスチルベの日持ちや、新しい技術への研究、輸送資材の検討をしている。



吉村 晴喜氏



ハウス外観



ハウス内 圃場の様子



アスチルベ開花の様子



染色したアスチルベ

(参考資料1)

花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール受賞者一覧

令和6年2月2日

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備考
33回(令和5年度)	農林水産大臣賞	神奈川県	窪田 敬一 窪田 鈴江	ガーデンシクラメン、自殖夏野菜苗、野菜接木苗、マリーゴールド、ハンジュービオラ、ナスタチウム、プリムラ類、ニューギニアインパチェンス、グリーンネックレス、オステオスペルマムなど(鉢物)	
33回(令和5年度)	農林水産大臣賞	愛知県	山田 裕也	スプレーギク(切花)	
33回(令和5年度)	農産局長賞	佐賀県	山口 豊喜	カーネーション(切花)	
33回(令和5年度)	農産局長賞	長崎県	吉村 晴喜 吉村 節子	アステルペ、センニチコウ(切花)	
32回(令和4年度)	農林水産大臣賞	千葉県	三井 清和(三和園) 三井 てるみ	カーネーション(切り花)	
32回(令和4年度)	農林水産大臣賞	愛知県	岩瀬 全安(有限会社三洋園芸)	ハーブ苗:ローズマリー、ミント、バジルなど(苗物)	
32回(令和4年度)	農産局長賞	栃木県	吉原 一成(株式会社イッセイ花園)	シクラメン、マーガレット、ペラルゴニウム、カリブラリア、ハイドランジア、ジャメスフリタニア、アングロニア、アスターなど(鉢物)	
32回(令和4年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎県	米本 順二 米本 道子	露地花き:ハンジュービオラ、ハボタン(苗物・切花) 施設花き:アルメリア、ランタナ、ポーチュカカ、ポインセチア、長崎ラベンダー、マンデビラ、チョコレートコスモス、ハイビスカス、ネオシア、マリーゴールドなど(鉢物・苗物)	
31回(令和3年度)	農林水産大臣賞	愛知県	渡辺 宏修(半助園芸) 渡辺 律子	アジサイ、ポットマム、コデマリ、ポリゴナム、アカンシア、ユーカリ(花木・鉢物)	
31回(令和3年度)	農産局長賞	岩手県	花巻農協 西和賀花卉生産組合 (代表者名 高橋 文昭)	リンドウ(切り花)	
31回(令和3年度)	農産局長賞	長崎県	後田 豊喜 後田 みどり	カーネーション、ランタンキュラス、トルコギキョウ(切り花)	
31回(令和3年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	千葉県	岡本 成生	シクラメン、カーネーション、サイネリア、インパチェンス、ピンカ、ハンジュービオラ(鉢物)	
31回(令和3年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	佐賀県	山口 庄次 山口 智美	キク(切り花)	
30回(令和2年度)	農林水産大臣賞	群馬県	今井 善園	バラ(切り花)	
30回(令和2年度)	生産局長賞	愛知県	森田 広幸(有限会社バラ屋 代表取締役)	ミニバラ、ペリー類、ヒイラギ、ハツユキカズラ(鉢物)	
30回(令和2年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎県	上野 周二 上野 登美子	キク(切り花)	
30回(令和2年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	熊本県	宇藤 康博 (有限会社ウトウファーム 代表取締役)	オリエンタルユリ、スターチス、ストック(切り花)	
29回(令和元年度)	農林水産大臣賞	埼玉県	山下 徳弥	ハンジュービオラ、ポットマム、ペチュニア、ニチニチソウ、カリブラリア、ラベンダー、ダイアンサス、ハボタン、チューリップ等(苗物・鉢物)	第59回農林水産祭 天皇杯受賞
29回(令和元年度)	生産局長賞	岐阜県	古川 正敏	ミニバラ、ハボタン、多肉植物、松盆栽、等(苗物・鉢物)、ハーバリウム	
29回(令和元年度)	生産局長賞	愛知県	西三河農業協同組合デルフィニウム部会 (代表者名 尾崎 満)	シネンシス系デルフィニウム(切り花)	
29回(令和元年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎県	本多 博樹 本多 洋子	キク(切り花)	
28回(30年度)	農林水産大臣賞	愛知県	高橋 成治	セダム、エケベリア等300種、グリーンネックレス	
28回(30年度)	生産局長賞	埼玉県	清水 秀一	ヘデラ、キヅタ、テイカカズラ等、緑化ユニット	
28回(30年度)	生産局長賞	大阪府	JA大阪泉州花 卉生産出荷部会 (代表者名 奥 安則)	アイリス、グラジオラス、リアトリス、ユリ、ケイトウ、フリージア	
28回(30年度)	生産局長賞	福岡県	南里 優 南里 美紀	コショウラン	
28回(30年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	佐賀県	武富 政敏	トルコギキョウ、スイートピー、シンテッポウユリ	
28回(30年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎県	開田 浩幸 開田 陽子	カーネーション、コギク、ハボタン	
27回(29年度)	農林水産大臣賞	岐阜県	戸崎 明	ユリオプスデージー、フランネルフラワー、ジャズミン、ブルーデージー、スノーサンゴ、ノボタン(鉢物)	
27回(29年度)	農林水産大臣賞	愛知県	藤目 方敏	キク、スプレーギク(切り花)	
27回(29年度)	生産局長賞	栃木県	角田 盛一	スイートピー、ヒマワリ、ユーカリ等(切り花)	
27回(29年度)	生産局長賞	埼玉県	須永 健司 須永 菜穂美	ガゼニア、オステオスペルマム、ブルーデージー、ゴールドコイン、プラキカム、マーガレット、オキザリス、ハンジュービオラ、マリーゴールド、ニチニチソウ、ペチュニア、アレナリア等(鉢物・苗)	
27回(29年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	佐賀県	徳永 憲昭	コショウラン(鉢物・苗)	
27回(29年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎県	森 敏朗 森 千佳子	キク(切り花)	
26回(28年度)	農林水産大臣賞	愛知	曾田 義則	サボテン類、アロエ、エケベリア、カランコエ、クラッスラ、セダム、ハオルチア、ユーフォルビア等(鉢物)	
26回(28年度)	農林水産大臣賞	福岡	坂本 和盛	シクラメン、アジサイ、バラ(鉢物)	
26回(28年度)	生産局長賞	埼玉	篠 太一	ポインセチア、マリーゴールド、インパチェンス、ノースポール(鉢物・苗物)	
26回(28年度)	生産局長賞	岐阜	白木 裕人	ヤブコウジ、ブルーベリー等(鉢物・苗物)	
26回(28年度)	生産局長賞	熊本	五箇塾(塾長 中川圭太)	オンシジウム、ファレノプシス、エビデンドラム、デンファレ等(切り花・鉢物)	
26回(28年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎	丸田 浩行	キク(切り花)	
25回(27年度)	農林水産大臣賞	埼玉	萩原 幸一	ケイトウ、ポインセチア、プリムラ、アップルゴーヤ、縄文ネギ(鉢物・花壇苗)	
25回(27年度)	農林水産大臣賞	愛知	近藤 晴義	ガーデンバラ苗、ミニツルバラ(鉢物・花苗)	
25回(27年度)	生産局長賞	福島	佐藤 幸一 佐藤 朝子	シクラメン、アジサイ、ユリ、チューリップ、カーネーション(鉢物)	
25回(27年度)	生産局長賞	佐賀	平田 憲市郎 平田 志緒梨	カーネーション(切り花)	

25回(27年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	岩手	岩手ふるさと農協園芸部会りんどう専門部 (代表者 鈴木 喜一)	リンドウ(切り花)	
25回(27年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	広島	有田 隆則	パンジー、ピオラ、マリーゴールド、ペチュニア、ニチニチソウ(花壇苗)	
25回(27年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	長崎	お花屋さん百花園有限公司 代表 渡邊 徳昭	キク(切り花)	
24回(26年度)	農林水産大臣賞	岩手	新岩手農業協同組合 八幡平花卉生産部会 (代表者 高村敏彦)	リンドウ(切り花・鉢物)	第54回農林水産祭 天皇杯受賞
24回(26年度)	農林水産大臣賞	埼玉	朝見 良治	ガーデンシクラメン、ポットカーネーション、イベリス、ラナンキュラス、ペラルゴニウム、ポインセチア、ニチニチソウ、クロサントラ、カラー、プリムラ等(鉢物・苗物)	
24回(26年度)	生産局長賞	愛知	梶 孝光	コギク(切り花)	
24回(26年度)	生産局長賞	福岡	豊田 武 豊田 千代子	キク、トルコギキョウ、アスター等(切り花)	
24回(26年度)	生産局長賞	長崎	前田 耕一 前田 綾子	シキミ等(切葉)	
24回(26年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	岐阜	島部 勝昌	エラチオールペゴニア(鉢物)	
23回(25年度)	農林水産大臣賞	山形	大塚 義雅 大塚 実千代	ミニシクラメン、カーネーション、ハボタン、その他花苗(鉢物・苗物)	
23回(25年度)	農林水産大臣賞	埼玉	フカヤスリーエフクラブ (代表者 関和勝宏)	ユリ(切り花)	
23回(25年度)	生産局長賞	岩手	坂戸 明夫 坂戸 テヨ	リンドウ(切り花)	
23回(25年度)	生産局長賞	愛知	荒木 祥充	アンスリウム、フィロデンドロン、アナナス類、カラテア、ヘリコニア、シダ類等(鉢物)	
23回(25年度)	生産局長賞	長崎	吉塚 正弘 吉塚 友子	カーネーション、ガーベラ(切り花)	
23回(25年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	岐阜	高橋 明利	ガーベラ(切り花)	
23回(25年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	福井	JAテラル越前キク部会 (代表者 三浦慶昭)	コギク、リンギク(切り花)	
22回(24年度)	農林水産大臣賞	福島	有限会社矢祭園芸 代表金澤 善浩	カーネーション、シクラメン、シュウメイギク、プリムラポリアンサ、プリムラマロコイデス等(鉢物・苗物)	
22回(24年度)	農林水産大臣賞	愛知	株式会社豊楽園 (取締役会長 斎藤豊治) (代表取締役社長 斎藤健治)	フィロデンドロン、フィットニア、プリムラ、ワイヤープランツ、シンゴニウム、ペペロミア等(鉢物)	
22回(24年度)	生産局長賞	福岡	花田 哲治 花田 泰子	バラ、ユリ(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	沖縄	新垣 進	コギク(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	石川	金沢市砂丘地集出荷場 フラワー部会	ストック、切り花ハボタン、フリージア(切り花)	
22回(24年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	坂井 浩一郎	キク(切り花)	
22回(24年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	いわい東農業協同組合 花き部会小菊専門部	コギク(切り花)	
21回(23年度)	農林水産大臣賞	佐賀	小柳 誠五 小柳 一枝	ユリ(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	神奈川	有限会社五領ヶ台ガーデン (代表取締役 窪田敬一)	シクラメン、ニューギニアインパチェンス、ナスタチューム、プリムラジュリアン等(鉢物)	
21回(23年度)	生産局長賞	愛知	稲垣 長太郎	カーネーション(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	長崎	有限会社金原園芸 (代表取締役 金原由紀男)	キク(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	熊本	坂崎 改輝 坂崎 久子	シュツコンカスミソウ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	吉澤 明弘	シクラメン、ハイビスカス、オステオスペルマム、ピオラ、クリサンセマム等(鉢物)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	牛島 博文	ガーベラ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合 菊部会 (代表者 野谷智樹)	キク(切り花)	
20回(22年度)	農林水産大臣賞	埼玉	有限会社横川花園 代表取締役横川保次	ユリ、チューリップ、ギボウシ等(鉢物)	
20回(22年度)	生産局長賞	岐阜	河合 修	アルストロメリア(切り花)	
20回(22年度)	生産局長賞	福岡	安田 克徳 安田 節子	サカキ、花桃、ニユウサイラン、しめ縄、門松、松竹梅等(花木・枝物類)	
20回(22年度)	生産局長賞	長崎	山口 政則 山口 和代	カーネーション(切り花)	
20回(22年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊藤 正規	シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア(鉢物洋らん類)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	埼玉	塩原 茂夫	アジサイ、ポインセチア(鉢物)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	大分	有限会社お花屋さんぶんご清川 代表取締役社長 小久保恭一	リンギク(切り花)	第49回農林水産祭 天皇杯受賞
19回(21年度)	生産局長賞	宮城	石巻農業協同組合 花卉部会ガーベラ班	ガーベラ(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	愛知	柳田 倉司	リンギク(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	大阪	梶本 定敏	ユリ、アイリス等(球根切り花)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	愛知	小松 英雄	アンスリウム(鉢物)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	福岡	浜野 重登 浜野 明美	バラ(切り花)	
18回(20年度)	生産局長賞	埼玉	安藤 貢	アガパンサス等(苗物)	
18回(20年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社サンコフ	セントポーリア等(鉢物)	
18回(20年度)	生産局長賞	大阪	福治 義彦	シャクヤク等(露地花き)	
18回(20年度)	生産局長賞	長崎	柴田 定實 柴田 富子	キク(切り花)	
18回(20年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石井 克明	バラ(切り花)	

17回(19年度)	農林水産大臣賞	埼玉	黒田 秀之	コチョウラン(鉢物)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	岐阜	吉田 正博	ガーベラ等(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	千葉	平野 圭祐	アンズリウム(切り花)	
17回(19年度)	生産局長賞	神奈川	加藤 悟	シンビジウム(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	愛知	平野 和美 平野 照美	ポインセチア等(鉢物)	
17回(19年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石橋 正基	カーネーション(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	千葉	丸朝園芸農業協同組合 花卉部 (部長)飯高 重雄	サンダーソニア等(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	福岡	空閑 善美 空閑 桂子	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	生産局長賞	鹿児島	サンライズグリーンヒル 観葉生産組合 (代表者 福留 健一)	オーガスタ等(観葉植物)	
16回(18年度)	生産局長賞	愛知	伊藤 勝久	シクラメン等(鉢物)	
16回(18年度)	生産局長賞	長崎	立石 俊一	バラ(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	澤瀬 一男 澤瀬 ロンタ	コギク等(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	樋口 喜善	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	真子 徳幸	キク(切り花)	
15回(17年度)	農林水産大臣賞	埼玉	田島 嶺	ガーデンシクラメン(苗物)	
15回(17年度)	生産局長賞	群馬	小倉 文雄	シクラメン等(鉢物)	
15回(17年度)	生産局長賞	愛知	内藤 完次	バラ(切り花)	
15回(17年度)	生産局長賞	長崎	JA香岐市花き部会 (代表者)下條利一	コギク等(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	高木 兼雄	スパティヒラム(鉢物)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	玉城 昌伸	キク(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	蔵下 良彦	キク(切り花)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	東京	八丈島農業振興青年研究会 鉢物部会 (代表者)大沢猛邦	フェニックス等(鉢物)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	岐阜	株式会社西垣園芸 西垣 正俊	オステオスペルマム(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	宮城	株式会社ハニーローズなんごう (代表者)増山 恒雄	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	愛知	株式会社H&Lプランテーション 橋飼 敏之 橋飼 浩	パンジー等(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	福岡	高橋 三千年 高橋 節子	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	鹿児島	小村 幸一	バキラ等(観葉植物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	神藤 正和	ハボタン等(苗物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	谷壽 隆雄	ハナモモ等(切り枝花木)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	尾崎 進一郎	シンビジウム(鉢物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	松永 宏隆	ユリ(切り花)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	JA東長崎菊部会 (代表者)松尾 修一	キク(切り花)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	徳島	有限会社岸本農園 岸本 昇 岸本ときこ	ハイビスカス等(鉢物)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	有限会社南原農園 南原 武博	ジャズミン等(切り花)	
13回(15年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社白木園芸 白木 和彦 白木ふさ子	レッドロビン等 (洋蘭・観葉植物)	
13回(15年度)	生産局長賞	佐賀	宮崎 憲治	スイトビー等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花弁出荷組合 益田支部 (代表者)中川 剛	キク等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	山田 則明	カーネーション等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	緒方 久幸	ガーベラ(切り花)く	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	西海菊出荷組合 (代表者)川内 通良	キク(切り花)	
12回(14年度)	農林水産大臣賞	愛知	石井 義明	アルストロメリア(切り花)	第42回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
12回(14年度)	生産局長賞	埼玉	成澤 勝司	マリーゴールド(苗物)	
12回(14年度)	生産局長賞	鹿児島	柴壽 喜好	アイビー等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	石川 正樹 石川 結花	ユリ(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	川端 芳彦 川端 葉子	ユリ等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	福田 良弘	コチョウラン(鉢物)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	小西 幸彦	マツ(盆栽)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	徳永 健史	コチョウラン(切り花・鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	埼玉	小林 滋幸	カランコエ((鉢物)	



11回(13年度)	農林水産大臣賞	長崎	JA北高電照菊研究会 (代表者)大谷 虎次	キク(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	埼玉	田中 勲	シクラメン等(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	岐阜	河野 欽博 河野 昂子	ラナンキュラス等(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	愛知	林 富造 林 房子	シンビジウム(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	佐賀	菖蒲 正行	トルコギキョウ等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	中辻 栄治	キク(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	石田 律恵	レースフラワー等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	阿部 雅志	シンビジウム(鉢物)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	森 崇	バラ(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高辻 義邦	ユリ等(切り花)	
10回(12年度)	農林水産大臣賞	岐阜	大西 隆	ミニバラ(鉢物)	第40回農林水産祭 天皇杯受賞
10回(12年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	沖永良部花き流通センター (代表者)泉 貞吉	テッポユリ等(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	群馬	林 康夫	シクラメン等(鉢物)	
10回(12年度)	生産局長賞	香川	農事組合法人香花園 (代表者)保坂重雄	カーネーション(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	大分	有限会社メルヘンローズ (代表者)小畑和敏	バラ(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	沖縄	玉城 哲弘	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	谷藤 幸子	リンドウ等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	山梨	農事組合法人 白根フラワーコーポラティブ	インパチェンス等(鉢物)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊奈 義就	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	宮脇 孝	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	藤本 傳夫	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	中園 英治	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	江頭 富春	カーネーション等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	富田 良成	バラ(切り花)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	埼玉	奥富 良雄	チューリップ等(苗物)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	愛知	角田 隆幸	ハボタン等(苗物)	第39回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
9回(11年度)	農産園芸局長賞	宮城	宮城県南三陸農業協同組合 花き部会	キク(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	山梨	渡辺 喜市	サンダーソニア等(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	滋賀	小杉 長男	シクラメン等(鉢物)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	沖縄	大城 清利	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	菅原 武男	リンドウ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	栃木	田代 正行	カーネーション(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	木村 実	バラ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	中村 元夫	ディフィニウム等(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉川 公彦	キク等(花苗)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	朝海 常祐	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高尾 保徳	ゴールドクレスト等(花木)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	小嶺 敏博	コウチョウラン等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	岐阜	間宮 敏昭	ハイビスカス等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	福岡	井上 茂之	トルコギキョウ等(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	埼玉	戸谷 武雄	シュツコンアスター(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	静岡	服部 一夫	クルクマ等(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	京都	清水 幸雄	ケンガイキク(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	長崎	鹿山 雅勝	カーネーション等(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	新潟	渡邊 和芳	ユリ(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	三重	松尾 廣文	シクラメン等(鉢物)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉本 利郎	バラ(切り花)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	宮城	平間 久義	ハーブ等(苗物)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	静岡	とびあ浜松農業協同組合 PCカーベラ販売部会	ガーベラ(切り花)	第37回農林水産祭 天皇杯受賞
7回(9年度)	農産園芸局長賞	青森	竹ノ原幸悦	カーネーション等(切り花)	

7回(9年度)	農産園芸局長賞	埼玉	立石 勝義	ポインセチア等(鉢物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	福岡	南嶋精二郎	ペゴニア等(苗物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	長崎	本田 敏秀	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	フローラぎふOKI	カラシコエ(鉢物)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	月本 雅治	バラ(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	兵庫	中岡 邦康	カーネーション(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	市川 一清	スイートピー等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	渡久山 稔	キク(切り花)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	栃木	菱沼 軍次	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	静岡	大庭 孝史	バキラ等(観葉植物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	埼玉	新 博之	カラシコエ等(鉢物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	京都	寺内 一郎	パンジー等(苗物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	福岡	大隈 博幸	バラ等(切り花)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	沖縄	外間 勝義	キク等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮城	斉藤 達義	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	群馬	小嶋 宏	バラ(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	安保 幹太	シンビジウム等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	堀田 泰規	プリムラ等(苗物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高知	広岡 稔	アイリス等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高知	小池 龍善	キク等(切り花)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	岐阜	福田 誠	セントポーリア等(苗物)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	福岡	波佐間 廣美	ディフェバキア等(観葉植物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	群馬	萩原 久雄	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	埼玉	千野 純一	インパチエンス等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	大分	飯田花き生産組合 (代表)時松 謙	バラ等(切り花)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	沖縄	宮平 憲勇	キク(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮城	手島 徹	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	金本 達夫	バラ(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	矢野 伸太郎	ストック(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	多田 護	ペニカナメモチ(植木)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	水田 義雄	キク(切り花)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	宮城	渡辺 俊	シクラメン等(鉢物)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	埼玉	金子 正	カラジウム等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	群馬	中山 忠義	洋ラン(切り花・鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野 喜代太	コチヨウラン等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	佐賀	中江 広域	キク(切り花)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	大分	志賀 智貴	ユリ(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	木村 勇一	ブラグ苗等(苗物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	林 一郎	ポインセチア等(鉢物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	明崎 勝治	ダリア等(切り花・球根生産)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	町田 一弘	スイートピー等(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	利田 正明	カーネーション等(切り花)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	茨城	鈴木 隆	ホウズキ等(鉢物)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	沖縄	亀谷 英雄	キク等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	秋田	三浦 康之	トルコギキョウ等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	群馬	小内 敬一	アジサイ等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	埼玉	矢作 文夫	カトレア等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	高知	山崎 廣美	ユリ等(切り花)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	森島 衛樹	ハナショウブ等(切り花)	

3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉川 喜一	シクラメン等(鉢物)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	沖野 高人	(花木)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	田代 恒夫	バラ等(切り花)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	栃木	渡辺 武雄	コチョウラン等(鉢物)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	静岡	渡辺 偉	クレマチス等(苗物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	岩手	畠山 正徳	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	群馬	大沢 憲一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	東京	浅沼 一治	フェニックス等(鉢物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野勝次	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	町田 静吾	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	竹内 栄一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	今村 喜和	キク等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉村 隆明	インパチェンス等(鉢物)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	藤原 博文	キク(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	岩手	猿子 恵久	アルストロメリア等(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	埼玉	本多 忠夫	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	栃木	菱沼 軍次	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	群馬	坂本 正次	アジサイ等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	長野	筒井 基博	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	岐阜	河本 弘元	バラ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	静岡	岩倉 廣治	(観葉植物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	完岡 義清	カキツバタ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	中本 博文	ハボタン等(苗物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	時松 謙	バラ等(切り花)	

## (参考資料2)

# 第33回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール実施要領

### 1. 目的

我が国の園芸の将来を担い、かつ国民生活に潤いと安らぎをもたらすものとして重要な役割を担っている花きについて、生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的とする。

### 2. 開催団体

- (1) 主催 一般財団法人日本花普及センター
- (2) 後援 農林水産省
- (3) 協賛 一般社団法人日本花き生産協会  
一般社団法人日本花き卸売市場協会  
一般社団法人全国農業改良普及支援協会

### 3. 出品資格

露地花きにあつては栽培面積が1ha以上、施設花きにあつては栽培面積が50a以上の花き生産を主とする農業者等であつて、技術・経営に優れ、地域社会に支持と共感を得ているものとする。

### 4. 出品方法

出品は、自薦、他薦を問わず、「花の国づくり共励会－花き技術・経営コンクール応募用紙」に所定の事項を書き込み、それに基づく経営及び活動の記録等の必要な資料を添付して提出する。

### 5. 審査方法

- (1) 予備審査  
一般財団法人日本花普及センターは、自薦、他薦を問わず応募用紙が提出された出品財について、書類審査等により本審査の対象となる出品財を選考する。
- (2) 本審査  
付属資料2の審査委員は、付属資料1の審査基準に基づき書類審査、必要に応じて現地調査を実施して、公正な審査を行う。

### 6. 表彰

- (1) 特に優秀と認められた出品財に対して農林水産大臣賞（2点）、優秀と認められた出品財に対して農産局長賞（4点）、一般財団法人日本花普及センター会長賞（数点）をそれぞれ授与する。
- (2) 農林水産大臣賞出品財は、国の定める「農林水産祭表彰要領」に基づき天皇杯等の選

賞資格を有する。

(3) 次に掲げる基準のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる場合にあっては、夫婦連名で表彰することができる。

但し、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞並びに農産局長賞に限る。

- ① 家族経営協定を締結していること。
- ② 推薦書等において経営主の配偶者の作業分担、従事日数等が概ね5割に達していると確認できること。
- ③ 農業改良普及センターなどの現場指導組織による意見書が添付されていること。  
なお、推薦の段階で夫婦連名であるものについては、一般財団法人日本花普及センター会長賞についてもこれに準ずる。

## 7. 事務局

標記コンクールを実施するため、事務局を一般財団法人日本花普及センター内に設置する。

## 8. 開催日程

- |            |  |
|------------|--|
| (1) 出品募集期間 | 令和5年9月19日～10月31日   |
| (2) 予備審査   | 令和5年12月上旬  |
| (3) 本審査    | 令和5年12月14日(木)<br>エッサム神田1号館 6階601号室<br>※会場とZoomによるリモート審査会 |
| (4) 現地調査   | 令和5年12月25日(月) 愛知県<br>令和5年12月26日(火) 神奈川県                  |
| (5) 受賞者発表  | 令和6年 2月 2日(金) プレスリリース<br>※受賞者の発表のみとして表彰式の開催はございません。      |

(付属資料1)

花き技術・経営コンクール審査基準

- 1 立地条件を活かした合理的、安定的な経営であること
- 2 経営に計画性と展望をもち、近代化、拡大化の方向をたどっていること
- 3 消費動向を的確にとらえ、消費者ニーズに応える経営を行っていること
- 4 栽培技術は、科学的基礎に基づき、その水準が高く優れ、改善意欲が盛んなこと
- 5 生産基盤の整備、資本整備の投資がかなり行われ、その利用効率が高いこと
- 6 土地利用及び労働力利用が合理的であること
- 7 生産性が高く所得が水準以上と認められること
- 8 労働軽減等により、ゆとりある農業を実現していること
- 9 環境保全に対する工夫や配慮が見られること
- 10 国際化対応を考慮した経営がなされていること

(付属資料2)

第33回(令和5年度) 花き技術・経営コンクール審査員名簿

順不同

氏名	所属・役職
腰岡 政二	公益財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事
土井 元章	京都大学 名誉教授
河野 恵伸	国立大学法人 福島大学 農学群食農学類農業経営学コース 教授
長村 智司	一般社団法人フラワーズサイエティ 会長
岡本 正夫	一般社団法人日本花き生産協会 顧問
長岡 求	株式会社フラワーオークションジャパン 顧問

## 第33回花の国づくり共励会

### 花き技術・経営コンクール受賞者の業績概要

令和6年2月発行

編集・発行 一般財団法人日本花普及センター

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階

TEL : 03-3664-8739 FAX : 03-3664-8743

e-mail : [jfpc@jfpc.or.jp](mailto:jfpc@jfpc.or.jp) URL : <http://www.jfpc.or.jp>



いいこと  
あった日、  
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン